



TOPICS

市民協働「熊谷の力」成田星宮地区「歴史文化・芸術祭」

令和6年10月5日(土)、成田星宮地区「歴史文化・芸術祭」が開催されました。この事業は、令和5年度新たな小学校が開校した成田・星宮地区において、地域の多様な歴史文化遺産や芸術文化について、その魅力を広く発信することを目的に、市民活動団体「成田星宮トリエンナーレ委員会」と熊谷市立江南文化財センターの協働事業として実施されたものです。

当日は、地元にある龍淵寺(りゅうえんじ)、愛染堂、上之雷電神社、伊井諾(いざなぎ)神社、古宮(こみや)神社の5か所でスタンプラリーが開催され、市内外から99名の参加者がありました。奥原晴湖(せいこ)の作品展や愛染明王の公開、国選定保存技術保持者・花輪滋實(しげみ)氏の作品展など、各会場では、普段は見ることのできない指定文化財の公開や芸術作品の展示等が行われました。

また、成田家の武将たちに扮した忍城おもてなし甲冑隊5人の面々がそれぞれのスタンプラリー会場に待機し、スタンプを押印。5か所すべてのスタンプを集めた参加者には、上之雷電神社にて景品が贈呈されました。

参加者は各会場で、楽しみながら文化財や芸術作品に触れることができたようで、市内外に対して広くその魅力を発信することができました。(山川愛)



奥原晴湖展(龍淵寺)

古代祭祀体験イベント

令和6年11月、国史跡「幡羅官衙(はらかんが)遺跡群」を構成する西別府祭祀遺跡で、昨年に続き2回目の古代祭祀体験イベントを開催しました。

本イベントは、奈良・平安時代、この地で行われていた湧泉祭祀を推定復元して体験するもので、当時の古代衣装を参加者、職員が着用し実施しました。祭祀には、熊谷、深谷両市の子供たちにも参加してもらいましたが、これは、史跡の重要性を認識し、興味をもってもらうことを、目的としたものです。実際の古代祭祀で使われたのは、石製模造品、墨書土器ですが、子供たちには特殊水溶紙に、願い事を書いてもらい、祭祀場にあった堀へ投げ入れてもらいました。

また、一人ずつ玉串奉奠(たまぐしほうてん)の儀式にも参加してもらい、緊張した面持ちで玉串を納めていました。

終了後、参加者からは、今後は遺跡群の見学会や、学校での遺跡を紹介する授業の要望などがありました。これらの声をまとめて、精査し、本史跡の保存意識を高め、興味をもってもらえるような事業を、展開していく予定です。

(腰塚)



遺跡概要説明



子どもたちによる玉串奉奠

市内遺跡発掘情報

上之土地区画整理地内発掘調査(速報)

今年度の上之土地区画整理地内の発掘調査は、前中西遺跡、諏訪木遺跡、上之古墳群の3遺跡で実施しました。

令和7年2月に終了した諏訪木遺跡の調査は、道路予定地、およそ220㎡の調査面積でしたが、調査範囲が狭小ながら、弥生時代中期の方形周溝墓や、埋没した河川跡(又は大溝跡)が確認されました。



方形周溝墓周溝土器出土状況

方形周溝墓は、方台部を囲む周溝のうち1辺のみの検出でしたが、中央の方台部に供献され据置れたと推定される底部穿孔の弥生時代中期の弥生土器壺が確認されています。また、河川跡と推定している遺構は、遺構確認面での幅が3mと大きかったのですが、調査で掘削可能な長さが1.5m程度だったため、満足な確認ができませんでした。しかし、出土遺物として、弥生時代の碧玉製の管玉や、これと同時期の土器から平安時代の土師器片などまで検出されていること、また、土層観察から、大きく2時期に規模の大きい河川氾濫で埋没したことがわかり、当時のこの周辺の地形や、生活の様子をうかがい知ることができる貴重な成果となりました。(腰塚)

池上遺跡の整理作業・調査報告書作成

市内東部に所在する池上遺跡では、令和2年から5年まで、道の駅整備事業に伴って発掘調査が行われました。今回は、奈良・平安時代の建物の柱材等の木材についてお話しします。

調査では、掘立柱建物と呼ばれる建物跡が複数発見され、建物群が「コ」の字状に配置されていることから、官衙関連施設と考えられています。そして、この掘立柱建物跡の柱穴からは、柱材や「礎板」と呼ばれる柱沈下防止用板の木材が出土し、その樹種を調べたところ、クリやドングリ(コナラ属コナラ亜科)が多く使われたことがわかりました。



池上遺跡調査区全体写真(南東から)

これらの木は、本遺跡の集落周辺地域に生育していたと推測され、入手しやすく、堅く丈夫で水中でも腐りにくいという特徴から、縄文時代から多用され、市内では、本遺跡の北西にある上川上地区の北島遺跡や市南部の津田地区の下田町遺跡などでも建物の柱材に利用されていたようです。(大野)

連載 くまがやの古墳群

③1 塩古墳群 ー市内で最も古い古墳時代前期の古墳が所在する古墳群ー

塩古墳群は、江南地区の塩、和田川を望む滑川左岸の比企丘陵北縁で、樹枝状に発達した狭隘な支谷に区分された、概ね標高59~80mを測る7つ丘陵に立地します。古墳群は7支群(I~VII支群)に分けられ、総数98基の古墳が確認されています。その分布状況には特徴的なものがあり、I支群では標高70~80mの上位には古墳時代前期古墳、標高59~61mの下位には同時代後期古墳が分布しています。この現象は、支谷を挟んで西に対峙するIII支群でも同様に見られます。ここでは、県指定史跡のI支群について記述します。

I支群は、狸塚(むじなづか)群の別名があり、全36基中、前期古墳は前方後方墳2基及び方墳27基が属し、残り7基は後期古墳の円墳です。その中の前方後方墳の第1号墳は、方墳の第3号墳に次いで3世紀末~4世紀中頃の築造とされ、I支群の前期古墳は市内で最も古い時期のものです。

このI支群は、古墳が丘陵頂部に占地し、高塚墳を志向する意識が伺えることから、当地方における出現期古墳の実例として貴重なものと言えます。(吉野)



塩古墳群I支群・前方後円墳(第1号墳)(手前が前方部、南から)



第1号墳出土土師器・二重口縁壺(口縁~上半部)

文化財センター通信

◇第17回地域伝統芸能今昔物語

令和6年11月23日(土・祝)、熊谷市妻沼中央公民館大ホールにおいて、伝統芸能を次世代に継承することを目的に、第17回地域伝統芸能今昔物語が開催されました。市指定無形民俗文化財保存団体5団体、一般芸能5団体、賛助出演1団体計11団体による共演があり、児童生徒を始めとした多くの若手の出演がありました。

当日は、690人の来場者が鑑賞し、無形の文化遺産の更なる保護や情報発信を行うことができました。収録した映像は記録保存するとともに、動画共有サイト「YouTube」での公開配信を行っています。(山川愛)



市指定無形民俗文化財
「東別府祭ばやし」東別府祭ばやし保存会

◇直実市民大学講義講師派遣

本市では、毎年、市在住・在勤の20歳以上の方を対象に「直実市民大学」を開校しています。「直実市民大学」は、郷土熊谷について学んだり、様々な分野について学習する場であり、江南文化財センターでは郷土の歴史や文化財に関する講義を2コマ受け持っています。

今年度1回目の講義は、5月8日(水)に市内妻沼の国宝「歓喜院聖天堂」をはじめとする文化財の保存修復・継承について、2回目の9月26日(木)は、市内上之に所在する前中西遺跡の弥生時代について講義を行いました。当センターでは、来年度も11月と1月に講義を行う予定です。皆様のご入学をお待ちしています(松田)



◇『The Great Person of Kumagaya—熊谷ゆかりの偉人たち—』パネル展

令和6年12月2日(月)から20日(金)まで、郷土の偉人に対する興味関心の向上と歴史的建造物の活用を目的に、市内妻沼に所在する国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」内の廊下及び手術室にて、熊谷ゆかりの偉人パネル展を開催しました。最期の戦いぶりが全国で語り継がれる武士・斎藤別当実盛や日本一の剛の者と称された武士・熊谷次郎直実、日本初公許女性医師の荻野吟子など熊谷を代表する35人をパネルで紹介し、18日間で延べ192人の来場がありました。

来場者の中には、当時、坂田医院に通院していたという地元の方も多く、開業当時の様子について様々なお話も聞くことができ、非常に興味深いものになりました。(山川愛)



坂田医院旧診療所・手術室展示状況

【文化財探訪—古墳時代の馬の痕跡—】

本市東部の上之地区から行田市池守地区にかけて広がる妻沼低地の水田下の諏訪木遺跡や池上遺跡をはじめ、隣接する行田市小敷田遺跡と池守遺跡から、6世紀末～7世紀ごろの木製壺鐙(つぼあぶみ)が計5点出土しています。

鐙とは乗馬の時に足を掛ける馬具で、柄杓(ひしゃく)のような形の物を壺鐙といいます。小敷田遺跡と池守遺跡からは、鐙のほかに馬上に座る鞍(くら)の部品や、農耕で馬に曳(ひ)かせた馬鍬(まぐわ)も出土しています。馬具は、古墳の副葬品として鉄製のものが出土することが多いのですが、妻沼低地では鉄製馬具の出土例は少ない反面、低地の遺跡の河川跡等から木製馬具が多く出土する特殊な地域です。

馬が貴重だった時代に、この地域に馬が集められたことは明らかで、地位のある者が移動のために騎乗する姿や、馬が田畑を耕す風景を思い浮かべることができます。(山川守)



諏訪木遺跡出土の木製壺鐙

文化財コラム 中山道の旅 その2

今回は、鴻巣市境から久下「一里塚跡」まで足を進めました。では、また旅を続けることとします。

中山道は、引き続き荒川の堤防を通りますが、約900m進むと、堤防から降りていく「輪型の坂」といわれる坂道になります。その坂道を約200m進むと左手に、明治45年(1912)建立の「久下堤碑」があり、傍には久下・太井郷土カルタ「後の世までも修堤記録 輪型の碑」が立っています。この輪型とは、荒川の河岸へ向かう大八車の通行が多く、その轍(わだち)の跡のことをいいます。さらに進み、右手に久下小学校・久下神社を見て、今度は久下の集落を東西に貫く現道(旧道)を西に進みます。途中、平成16年(2004)完成の久下橋をくぐり、約1km先に進むと、右手に私設の「久下上宿」石灯笼型道標が見えてきます。ここからは、再び荒川の堤防に向かう左の道を進みますが、約100m進むと、右手には熊谷市指定有形民俗文化財「権八地蔵」が祀(まつ)られています。前回の鴻巣市・権八地蔵で省略した地蔵の由緒についてですが、権八地蔵は「物言い地蔵」とも言い、歌舞伎「鈴ヶ森」の白井権八にゆかりがあります。上州(群馬県)の生糸商人を金銭目当ての襲った権八は、見ていた地蔵に「他人には言わないでほしい」と願ったところ、地蔵が権八に「自分は言わないが、お前も言うなよ」と言ったと伝わっています。そして、この向かいの久下権八公園には、「塞(さい)の神(かみ)道標」と「熊谷堤の碑」が建てられています。

ここからは堤防の上に向かう急坂を登ります。堤防を上り切ると、右手には「久下の渡し 冠水橋跡」碑が立っています。かつてこの碑の前の荒川には「久下の渡し」があり、その後「思いやり橋」と呼ばれた木製の旧久下橋が架けられますが、この橋は、現在の久下橋完成により新旧交代がなされるまで利用されていました。

今回は、久下「一里塚跡」から約2.5km進みました。旅は続きます。次回もお楽しみに。(吉野)



熊谷市指定有形民俗文化財 「塞の神道標」(左に「塞の神」、右に「右熊谷道」)
「権八地蔵」

【熊谷地域のうちわ展】

江南文化財センターホールで、1月6日から6月30日にかけて標記の展示を行っています。

今回の展示では、昭和20年代から30年代にかけて、市内の商店で配られたうちわ12点と、円山(まるやま)古墳群第2号墳出土の「さしば*形埴輪」を展示しています。

うちわは、涼をとるため使用され、破れると廃棄されることから、古いうちわは意外と残りづらいものですが、今回の資料は、市内の旧家から一括して寄贈を受けた、保存状態も良好な資料です。この機会にぜひご覧ください。(森田)

※ 漢字で「翳」と書き、貴人の頭を隠すようにさしかけたうちわ形の道具。



編集後記

昨年は、「埴輪 挂甲の武人」の国宝指定50周年ということで、東京国立博物館で特別展「はにわ」が開催され、全国から120点余りの選りすぐりの埴輪が展示されました。

その中には、熊谷市野原古墳から出土した「踊る埴輪(人々)」の解体修理後初のお披露目もなされ、多くの人々が、埴輪の魅力を再認識する特別展となりました。

「踊る埴輪」は、日本で一番有名な埴輪ですが、その出土地が熊谷市であることはあまり知られていません。今後本市では、「踊る埴輪」=熊谷市を積極的にアピールしていこうと考えていますので、どうぞご期待ください。(森田)



発行：令和7年3月12日(2025/3/12)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel: 048-536-5062 FAX: 048-536-4575 Mail: c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp